日刊 動労千葉
79.3.17
No.61
国鉄動力車労働組合
千葉地方本部
千葉市要町二-一八（動力車会館）
（鉄電）二二五八～九・（公衆）〇四七二（22）七二〇七

労農連帯を一層強め、三里塚・ジェット闘争を貫徹しよう！

デッチ上げで煽動された 3/18-20『破壊オルグ』を粉砕せよ

中央本部またしても機関無視の暴挙！

中央本部は三月一五日千葉地本内各支部役員の自宅へ、公印を使用した林大鳳委員長名の手紙を郵送し、公然と千葉地本破壊を宣言した。　千葉地本一四〇〇名組合員・家族は、この間の機関確認に基づき、動労内外の、全国のあらゆる闘う仲間達と連帯し、この攻撃を断固粉砕するであろうことを明らかにする。　中央本部は、いかなる機関決定により、誰がこの〝手紙〟を発出したのかを、まず明らかにせよ。　この間、千葉地本に対する〝話し合い〟などの働きかけは全て、〝千葉排除〟のためのアリバイであったことがこの〝手紙〟によって、かくしようもなく明白となった。革マルと追随する反動分子は最初から千葉地本と話し合う気など全くなかったのだ。　「査問委」にかけられ、「執行権停止」を確認され「発効」を猶予されている千葉地本闘争委員会の頭ごしに〝交流〟ができるなどと、誰が考えられるというのか。三月一八～二〇日の動労の名をもってする会議やオルグ名での全ての行動は、いまや、明確に千葉地本破壊〝オルグ〟のためのものである。この期間中に、現に存在し機能する千葉地本闘争委員会の承諾なしに、千葉地本内へ足を踏み入れる者は、全て、千葉地本に対する破壊攻撃者である。われわれはこれを断固粉砕する。

> 下手くそな〝ころび屋〟まで動員して、千葉排除の「口実づくり」を演出した
> 本部城石組織部長

三月一三日、本部組織部責任において出された「電話連絡第四一一号」は、本部組織指導部のおどろくべき腐敗とファッショ性＝動労運動史上かつてない歴史的汚点をまざまざと示している。

またしても意図的な、千葉地本への電話連絡ストップという条件にも拘わず、全国の心ある仲間の協力で内容を知ったわれわれは、直ちに『日刊動労千葉』・号外（三月一三日付）、№五八（三月一四日付）、№六〇（三月一六日付）でこの陰謀とデマを完全に暴露し切った。本部はこれに反論もできず沈黙している。

電話連絡第四一一号たるや白を黒といいくるめる百パーセントのデッチ上げであり、そのやり口は、入場を拒否されることを百も承知で、わざわざ東京地青や身元不明人物を「同行」し、その「入場拒否」を唯一の口実に、千葉地本を攻撃するという計画的陰謀的やり口であり、その常軌を逸した発想の根拠は、一〇二定中で「執行権停止」が決定できず、青年部を使って策動した「3・5千葉破壊オルグ」すらも完全に粉砕されてしまったことへの危機とあせりのとりもどしという点にある。

千葉地本の態度は鮮明である。この百パーセントのデッチ上げ、ヤクザ・ころび屋まがいの陰謀的ペテンをろうして「中執権限」を私物化し、動労四万八千を革マルの邪悪な目的のためにひきまわすことを、われわれは黙って見すごすことはできない。今、千葉地本一四〇〇名と全国組織内外の心ある闘う仲間は、動労革マルが演出したこの歴史的大犯罪を前にわき上る怒りに燃え立っている。

われわれは、かかるファシスト的煽動に乗って千葉破壊のために職場攪乱を画策する輩には、それがどのようなベールをかぶってこようとも、一〇年来の怒りと実力をとき放ち断乎として粉砕し切るであろう。

> 全ての仲間達ともに決起せよ！

全国の心ある闘う仲間達よ

今こそ、この動労革マルとそれに追随する一部悪質反動分子の最後のあがきの正体をはっきりと見とどけよ！動労の輝ける戦闘的伝統をけがし、革マルの私物化の野望のために〝排除の論理〟をもって、デマをねつ造してまで上から分裂を押しつけるこの不正義を絶対に許すな。

「水本」「三里塚敵対」「貨物安定宣言」「暴力支配」に代表される動労の変質を糾す、わが「組合」臨大路線」に関する論争から逃げまわり、組織運営原則にかかわる重大問題「五項目の解明要求」についに一度たりとも真正面から答えることができず、問答無用の「千葉破壊オルグ」にころがり込んだ彼らを断じて許してはならない。

三月一八・一九・二〇日、この反動的目的のために全国からかき集め、千葉に投入せんとする空前の暴挙を勇気をもって拒否せよ。

このような暴挙をあえてするならば、動労はもはや「組合」ではなくなり、完全な「革マル御用組織」に転落だ。

この暴挙によって発生する一切の責任は、あげて革マルとその追随分子の側にあることをはっきりと宣言するものである。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！